



第1回緑の分権改革推進委員会 6/11

クリーンエネルギー等の地域資源を把握し、最大限活用することで、地域の活性化などの推進を目指す『第1回緑の分権改革推進委員会』が役場静内庁舎で行われました。

委員長に就任した小田清教授(北海学園大学院経済学研究科長)は「二酸化炭素の削減と地域活性化の両立への可能性を探りたい」とあいさつ。

今後、静内温泉に木質チップボイラーを導入するなど実証実験を行っていきます。



山手小学校田植え学習 5/27

子どもたちに『生きた田植え』を学習させようと、山手小学校田植え学習が同校5年生を対象に行われました。

これは、静内稲作振興会(日蔭由昭会長)の協力により、静内豊畑の水田で実施。子どもたちは、初めての田植えに悪戦苦闘しながらも、ていねいに心を込めて苗を植えました。

学級委員長の大貫飛鳥さんと森下聖さんは「田植えで汚れたけどおもしろかった。植えた苗が成長し、最後に食べるのが楽しみです」と話しました。



森は海の恋人運動 5/25

多くの町民の皆さんとの協働による森林づくり・みどりの環境づくりを推進し、国道周辺の緑化を目的とした『森は海の恋人運動』植樹祭が静内真歌で行われました。

この日は、町民の方など約130名のほか、平成20年から苗木の寄贈等で協力されている、株式会社ニトリ北海道応援基金事務局の柿崎さんも参加。クロマツやアオダモ、エゾヤマツツジの苗木1,200本を一本一本ていねいに植樹していました。

# ニュースフラッシュ

まちのできごと、話題をお届けします。



最後の運動会 6/13

来年4月から三石小学校に統合される、延出小学校、梟舞小学校、本桐小学校、歌笛小学校で最後の運動会が行われました。

晴天に恵まれたこの日、参加した児童や地域の人たちが徒競走や組体操、綱引きなどの競技を通して、最後の運動会を楽しんでいました。また、リレー競走では、日本ハムファイターズの稲葉篤紀選手から地域還元活動の一環で、閉校する4校に贈られた『バトン』を使うなど、思い出に残る運動会となりました。



故藤井益美議員へ特別感謝状 6/3

農業委員や土地改良区理事などを歴任され、平成15年からは町議会議員を務められるなど、長年町政に携わり、5月28日に亡くなられた町議会議員の藤井益美さんに特別感謝状を贈りました。

酒井町長から感謝状を手渡された妻の松子さんは「感謝状をいただき、本人も喜んでいてと思います」と話し、酒井町長は「若い頃から活躍されていて、私もいろいろとお世話になりました。今回のことは、残念でなりません」と故人を偲びました。



延出小学校田植え学習 5/26

田んぼのそばの坂道に咲く桜が見守る中、小学校統合に伴い最後となる田植え学習が、児童や保育所園児、地域のボランティアなど約50名が参加し、延出小学校水田で行われました。

小泉校長は「保護者や地域の人たちが、みんなのためを思って苗を育て、田んぼを整え、草刈りもしてくれました。そのことに感謝の気持ちをもって、ていねいに、大切に植えましょう」と呼びかけ、子どもたちは、泥だらけになりながら苗を植え付けました。



ホースマニア 5/17~5/23

姉妹都市の米国レキシントン市を、芸術イベント『ホースマニア』の作品製作のため、細川好弘広告(株)の細川好弘さんと細川武充さんが訪問しました。

これは、実物大の馬の模型に様々なペイントを施すもので、完成作品は9月から10月にかけて同市で行われる世界乗馬大会の一環として、7月から市内に展示されます。

作品を手がけた細川さんは「現地での塗料の調達や慣れない外国製塗料に苦労したが、この作品が日本や新ひだか町のPRになればうれしいです」と話しました。



枯枝除去ボランティア 6/7

子どもたちが安全に公園で遊べるように、町シルバー人材センターの会員による枯枝除去ボランティアが、静内青柳町の「なかよし公園」と「あおば公園」で行われました。



第22回イチャルパ 6/6

北海道アイヌ協会新ひだか支部による、イチャルパ(先祖供養)が、静内真歌のチセ(アイヌ民族の伝統家屋)で行われ、くだものなどの供物をささげ、先人の霊を慰めていました。



わくわく科学実験室 5/29

三石地区の小学5、6年生を対象とした『わくわく科学実験室(町教育委員会主催)』が三石中学校で行われ、参加者は吹き戻しの製作などを通して、科学に親しんでいました。



札幌三石会、札幌静内会定期総会 5/23・6/4

旧三石町、旧静内町出身で札幌市などに住む人たちが組織される札幌三石会及び札幌静内会の定期総会・懇親会がそれぞれ行われ、参加者は、ふるさと話に花を咲かせていました。